

地域農林経済学会ニューズレター

The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

2021. 12. 28 第 29 号

編集・発行 地域農林経済学会 <http://a-rafe.org/2/0>

【学会事務局】〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社学会部内

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 E-mail: arfe@nacos.com

目次

1 『農林業問題研究』第 57 巻第 4 号（第 224 号）の発刊案内	1
1-1 目次	
1-2 編集後記	2
2 農林業問題研究 第 57 巻（第 221～224 号）総目次	2
3 学会賞受賞者挨拶	3
3-1 地域農林経済学会賞受賞者より	
3-2 学会誌賞受賞者より	
4 2021 年度中国支部大会報告	4

1. 『農林業問題研究』第 57 巻第 4 号（第 224 号）の発刊案内

1-1 目次

<研究論文>

ニート・引きこもり等の人々への就農に向けた組織的支援の抱える課題について
—中山間地域での取り組みに着目して—

植田剛司

<個別報告論文>

紛争後のスリランカ北部農村におけるタミル人世帯の生計再建メカニズム

原田智子

中山間地域での企業参入による経営耕地面積の拡大要件—兵庫県養父市における
農外参入企業 11 社への聞き取り調査より—

衛藤彬史・衣笠智子・安田公治

中山間地域の集落営農法人における世代交代のプロセス—島根県 Y 法人を事例と
して—

高田晋史・柴崎浩平・中塚雅也

1-2 編集後記

224号では、研究論文1本と個別報告論文3本の掲載となりました。2020年度、第70回地域農林経済学会大会は初めてオンライン開催となり、個別報告もオンラインでの報告となりました。個別報告総数37本に対して24本の投稿があり、13本が掲載されました。さらに個別報告優秀賞を受賞した1本は研究論文として投稿され、採用されました。個別報告数は若干減少しましたが、投稿論文および掲載論文数は昨年度と同じ程度でしたので、安堵しました。2020年度第70回大会の

個別報告投稿論文の審査は、これで全てとなります。そしてすぐに2021年度第71回大会の個別報告投稿論文審査が始まります。常任編集委員会としましては、気を引き締めて進めてまいりたいと思います。査読を依頼させていただく先生方には、ご負担をおかけしますが、学会の発展のため、なにとぞよろしく願いいたします。また、研究論文の投稿は平均月1本程度ありますが、さらなる投稿をお待ちしております！（T.N）

2 農林業問題研究 第57巻（第221～224号）総目次

第57巻・第1号（第221号）2021年3月

<大会報告>

会長講演

地域農林経済学が分析対象とする「地域」とは一先行議論の整理と未来像— 北川 太一

解題・ディスカッション

次世代に向けての地域農林経済学の再検討—地域農林業の現場の新たな捉え方— 辻村英之

大会講演

AIを活用した政策提言と分散型社会の構想 広井良典・福田幸二

大会報告

研究者と農業経営者の「共働」によるスマート水田農業モデルの構築—農匠ナビプロジェクトによる「匠の技」の可視化と伝承支援— 南石晃明

質的研究と量的研究との融合の可能性

—共通課題への異なる視点からのアプローチの可能性— 駄田井 久

国際ミニシンポジウム

Community-Based Natural Resources

<書評>

渋谷往男 編著『なぜ企業は農業に参入するのか』 川崎訓昭

第57巻・第2号（第222号）2021年6月

<個別報告論文>

ドイツにおける農業4.0の展開飯國 芳明・南石 晃明

沈砂池のストックマネージメントに関する経済分析—赤土流出対策と沿岸生態系の保全— 川島滋和

農家の農業経営へのIT利用の決定要因—兵庫県養父市の農家データを用いた計量研究—衣笠 智子・衛藤 彬史・安田 公治・豊澤 圭

近隣での縫製工場の稼働が家計厚生にもたらす影響—カンボジア農村を事例として— 三輪加奈

中山間地域のコミュニティ・ビジネスにおける事業ネットワークの特徴

徳浦 啓介・ファム フ クィ・井上 憲一

フードバンク運営者の満足度決定要因
高橋知笑・大江靖雄
都市型マルシェ出品者の売上満足度とその要因
武田史織・大江靖雄
農村移住起業者の意向にみる集積形成のメカニズム
一丹波篠山市福住地区を事例として一 谷川智穂・中塚 雅也
＜書評＞

野田公夫 著『未来を語る日本農業史—世界のなかの日本—』
藤原厚作
増田佳昭 編著『制度環境の変化と農協の未来像—自律への道を切り拓く—』
辻村英之

第 57 卷・第 3 号 (第 223 号) 2021 年 9 月

＜研究論文＞

圃場分散と農業集落の地理的・社会的条件—空間計量経済分析によるアプローチ—
岡村伊織・藤栄 剛

＜個別報告論文＞

都市部における食品事業者と農家の連携に関する—考察—鳴門屋製パンのファームマイレージ²運動への参画を事例として—
中塚華奈
海外酪農経営における ICT 導入およびクラスター形成の可能性

3 学会賞受賞者挨拶

3-1 地域農林経済学会賞受賞者より

松尾隆策・山口三十四『道の駅の経済学—地域社会の振興と経済活性化—』勁草書房、2019年8月

この度は、栄誉ある地域農林経済学会賞を頂戴し、誠にありがとうございます。

受賞の対象となりました『道の駅の経済学—地域社会の振興と経済活性化—』勁草書房は、道の駅の地域振興に対する効果を歴史、理論、計量、政策と、体系立

長命洋佑・南石晃明・横溝 功・佐藤正衛

＜書評＞

Yasuo Ohe 著『Community-based Rural Tourism and Entrepreneurship: A Microeconomic Approach』
八木浩平

第 57 卷・第 4 号 (第 224 号) 2021 年 12 月

＜研究論文＞

ニート・引きこもり等の人々への就農に向けた組織的支援の抱える課題について—中山間地域での取り組みに着目して—
植田剛司

＜個別報告論文＞

紛争後のスリランカ北部農村におけるタミル人世帯の生計再建メカニズム
原田智子

中山間地域での企業参入による経営耕地面積の拡大要件—兵庫県養父市における農外参入企業 11 社への聞き取り調査より—
衛藤彬史・衣笠智子・安田公治
中山間地域の集落営農法人における世代交代のプロセス—島根県 Y 法人を事例として—
高田晋史・柴崎浩平・中塚雅也

てて分析した著書です。1993年に道路の休憩施設としてスタートした道の駅は、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能の基本機能に加え、防災、医療・福祉、住民サービス等、進化・発展を続けています。同施設は、地域の創意工夫で運営され、地方創生の拠点として、大きな役割を果たしています。

本書では、道の駅の売上高、入場者数、管理費、総事業費やイベント数が、いかな

るメカニズムで決定され、地域振興に役立っているかを、計量的に分析しました。第1章では歴史的分析、第2章では理論的分析、第3章から第8章までは計量的分析、そして終章では政策的分析を行っています。特に第3章から第8章では、PFI(第3章)、新交付金(第4章)、防災機能(第5章)、地銀(第6章)、北杜市(第7章)、経済波及効果(第8章)に関する計量分析を行っており、これらの分析では、同時方程式、産業連関、DEA分析等、非常に豊富な手法を用いています。なかでも、第7章の北杜市に関する分析と、第8章の産業連関分析では、駅内の直売所の農産物販売が、地域振興に非常に重要な効果を及ぼしていることを明らかにしています。

本書に対しまして、この様な素晴らしい賞を頂戴しましたことは、地域研究に携わる研究者の方々の暖かい激励とこれからへの期待が込められているものと感じます。共著者の山口三十四神戸大学名誉教授のご指導のもと、これまで、道の駅の研究に10年あまりにわたって携わってまいりましたが、この受賞を契機として、今後も地域活性化の分野の研究に励んでいく所存であります。ありがとうございます。(東洋大学 松尾隆策)

3-2 学会誌賞受賞者より

大石和男「宇根豊の減農薬稲作から農本主義への思想展開」『農林業問題研究』2020年9月、56巻3号、81-92頁、2020年

4 2021年度中国支部大会報告

2021年10月27日、「農山村地域における6次産業化と地域生活交流拠点の形成・維持について」をメインテーマとし、ケシャブラル マハラジャン会員(広島

このたびは学会誌賞を賜りまして、誠にありがとうございます。

本論文では、思想家である宇根豊氏が、有機農業ではなく「減農薬」に固執しながら思想の深化を果たしていった理由の解明を課題としました。通例ですと、「減農薬」を突き詰めていった先には有機農業(又は自然農法)が横たわっていると考えがちですが、その道筋を辿らなかった点に宇根思想の独自性が存在すると考えたのです。

その上で2つの農法の違いを、技術面ではなく、社会変革思想の志向性の違いとして読み解くことで、結論を導きだしました。農的思想の研究は数が少なく、分析手法を先行研究から移入することは難しかったため、独自の手法を編み出さざるを得ず、やや乱暴な論旨となってしまった感のあることは否定できません。しかしながら、同じ研究室の秋津元輝先生の言である「良い論文とは、分かりやすい論文である」を意識していたからこそ、なんとか書き切ることができました。

私は農業経済学については、他の学問手法(経済学、経営学、歴史学、社会学など)を取捨選択しつつ、それを農的事象といかに効果的に接合していくのかという点に、研究領域としての醍醐味があると思っています。お行儀の良い論文を書く修業ももちろん大事ですが、新たな研究の型を生みだそうとする大胆な研究がもっと増えて欲しいなと思う今日この頃です。(文化庁 大石和男)

大学)を大会実行委員長に迎え、今年度中国支部大会を広島県三次市の各所において開催しました。広島県内を中心に15名の参加者がありました。

11:00 より、平田観光農園内にある築100年の農家家屋を改装したカフェにて、昼食をとりながら参加者相互の懇談を行いました。12:00からは暖かい日差しのもと、同園内において、果物狩り体験と施設の視察を行いました。傾斜のあるリンゴ園を歩き回り、とれたてのリンゴを味わいました。

13:30からは、「川西郷の駅いつわの里」を視察し、同施設を運営する(株)川西郷の駅代表取締役の平田克明氏の講演「(株)川西郷の駅の設立・運営、地域連携、コンビニエンスストア一体型店舗運営について」を拝聴しました。同社は三次市川西地区の全世帯の80%が出資して設立された地域マネジメントのための組織であり、JA支所の撤退後、地区内の交流拠点の創出と維持に務めてきました。2017年には「川西郷の駅いつわの里」にファミリーマートを誘致し、野菜の直売施設、食堂などを併設した、住民のための交流拠点を構築・運営しています。講演では、同社の

設立から、「川西郷の駅いつわの里」の開設とファミリーマート誘致に至る住民の合意形成のプロセスや運営上の課題など、貴重なお話しを伺うことが出来ました。当該ファミリーマートでは、当地のニーズに合わせた日用品の品揃えが充実しており、住民生活を支える機能を果たしていました。また、24時間稼働するATMが設置されていることが、若い年代の住民に支持されていることなどが紹介されました。

今回、中国支部では例の少ない視察・研修形式にて支部大会を実施しましたが、地域の資源を活用した体験型農業観光施設での体験、また、生活環境維持のための地域の内発的な取り組みを視察するというプログラムは、大学院生等に向けて本学会の魅力をアピールする場にもなったのではないかと考えています。

本支部大会には、学会よりご支援をいただきました。記して感謝を申し上げます。(福山市立大学 清原昭子)



第1部 観光農園視察の様子



第2部講演会の様子

★編集後記

会員相互のよりよいコミュニケーションにむけて、皆様からのご意見やご要望、ご提案をお待ちしております。組織・広報担当常任理事(堀田 学 horita@fpu.ac.jp または辻村英之 tsujimura.hideyuki.8m@kyoto-u.ac.jp)まで、積極的にお知らせ下さい。(M.H.)

学会配信メールの受信設定のお願い

最近、地域農林経済学会の配信メール（地域農林経済学会事務局 arfe@nacos.com からの一斉配信メール）が迷惑メールボックスに入ってしまう現象が多くみられます。配信側で可能な対策は講じておりますが、会員の皆様におかれまして受信状況をチェックいただき、受信側での対策として受信設定をお願いいたします。

今後も学会の大会情報などをメール配信いたしますので、お手数をおかけしますが、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

【1】地域農林経済学会の配信メールが受信できているかどうかご確認をお願いします。

直近では、6月に、第5回国際ワークショップについてのメールを配信しております。送信元は、地域農林経済学会事務局<arfe@nacos.com>です。受信トレイに問題なく届いている場合には、以下の【2】の受信設定をしていただく必要はありません。

受信トレイに届いていない場合には、迷惑メールボックスに入っていないかどうか、ご確認をお願いします。そのうえで、【2】の設定をお願いします。

【2】地域農林経済学会のドメインの受信設定をお願いします。

配信メールが通常の受信トレイに届かない場合には、受信側の設定として、配信元メールアドレス「arfe@nacos.com」のドメインである「@nacos.com」の受信設定をお願いします。

<受信設定の方法について>

今回とくに問題が生じているのがGmailで受信する場合ですので、例として、Gmailの受信設定の方法をご案内します。

「Gmailでメールアドレスの受信設定をする方法」

<https://office-hack.com/gmail/receive-settings/>

【配信メールが迷惑メールボックスにも届いていない場合】

メールアドレスが登録されていない、または、登録メールアドレスの更新がされていない可能性があります。地域農林経済学会オンライン会員情報管理システム e-naf (<https://www.e-naf.jp/ARFE/member/login.php>) にログインのうえ、会員情報の確認・更新をお願いします。パスワードおよび登録メールアドレス不明のためにログインができない場合には、学会事務局（arfe@nacos.com）までご連絡ください。

地域農林経済学会ニューズレター 第29号

発行日：2021年12月28日

ARAFE Newsletter No.29

Dec 28 2021

発行者：地域農林経済学会常任理事会（組織・広報担当）
